

## 数式処理の重要性を再認識し、アピールしよう

IT 革命と言われている。しかし、IT と言っても様々な側面がある。弊社に言及して恐縮であるが、弊社では今後、社内の基礎研究は XIT をやるべきだと言っている。この X は様々な要素が入る変数を意味するとともに Extended の意味も暗示する。例えば QIT は、量子計算 IT あるいは量子コンピュータ IT のことだ。IT 革命を果たすためには、それぞれの XIT が発展し、それらがうまく融合していかなくてはならないだろう。

さて、その XIT を支えるのは XIS (X Information Science) ではなかろうか。科学なくして技術はあり得ず、また科学の革新なくして技術の革命はあり得ないからだ。わが数式処理学会では X= Computer Algebra (CA) となる。ところが、この CA の重要性が一般社会ではもちろん、理工系の学界においても十分に認識されていないように思える。明日の IT を実現するためには数値計算とともに記号数式処理が必要であることを、まず数式処理学会の会員一人一人が再認識し、時には実例を交えてわかりやすく外部の人に説明することが重要である。何も流行を追って IT 時代に追随することはない。しかし、国家を挙げて IT と言っている時世に数式処理の重要性を訴えるのは、ある意味で良いチャンスではなかろうか。

日本数式処理学会の発展のためには、その研究成果もさることながら、戦略的に情報発信し、数式処理の重要性、学会の存在を広く強くアピールしていかねばならないと痛感している昨今である。

日本数式処理学会理事  
数式処理編集委員長  
白柳 潔